

ゆりかご園を委託させていただき、無我夢中でやってきた1年と1か月です。今、改めて「医療型児童発達支援センター」のこども達の『今・そして将来』が楽しく充実した暮らしができるかを考える必要性を痛感しています。通園療育にいられているこども達へのアプローチの方法を「治療教育」の視点で更に構築する為には何が必要か? また、医療・リハビリスタッフ・保育スタッフが、何を指して連携をとるのか?等々、今一度それぞれの立場で提案をした上で『ゆりかご園』の療育を見直したいと思えます。5月号で「ふりかけプロジェクト」の記事を掲載しました。自主事業ではありますが、外来の方にアンケートを記載いただき、ゆりかご園で何かできないかを担当スタッフで企画立案している最中です。微々たる力ではありますが、一つ一つアクションを起こしていきたいと思えます。乞うご期待!!

安全安心が大切!! ~ゆりかご園診療所小児科医師のご紹介~



朝の診察をする高尾先生

ゆりかご園に来て1年を過ぎたところで、通信に文章を初めて書くことになりました。私は1951年うさぎ年生まれですから、今年が7回目のうさぎになります。医学部卒業後は小児科に進み、小児の神経グループに入りました。四国での研修を経て大学に戻り、細々と心療外来を始めると、心身症に加えて不登校の子どもがポツポツと受診してきました。お母さんのしんどそうな様子を見て「これでは、子どもは元気になれない。」と思いました。以後、家族が安定することが、子供も含めて自己回復力を育てると信じて続けてきました。また神経外来でしたので、脳性麻痺やてんかん

や先天異常を持った子供達との出会いが始まりました。途中、20年ほどは特養勤務がメインだったこともあります。いつも、特効薬のない(最近はそのに近いものも出てきていますが…)状態をどうしてしのいでいくか、本人やご家族と共に探りながら歩んできました。その中で最近出会った「ポリヴェーガル理論」は今までの私の考えはそれほど間違ってもいなかった、と教えてくれました。簡単にまとめると、「安心・安全を感じることで、社会交流を促す神経系を活性化し、それが身体を調整する自律神経の力を強くする。更に身体の情報で脳を支える。」ということです。これからも、医学の進歩に遅れずに、皆さんが安心安全と感じられる診療を続けていこうと思います。(ゆりかご園診療所小児科 医師:高尾龍雄)

ゆりかご ガラリー 明石市立ゆりかご園「ゆりかごギャラリー」からのお知らせ!

5月~6月のゆりかごギャラリーでは、笑顔いっぱいのファミリー写真を展示させていただいています。お子様もカメラに向かってニッコリ笑顔のカメラ目線!!とても素敵な写真を沢山展示させていただいています。是非、ゆりかご園でご覧ください。



保育所等訪問支援事業の役割 ~お子様が地域で快適に過ごすために~



お子様とリハビリに取り組む山本副施設長

最近「昔に比べて母子通園の形も大きく変わってきたな。」と思っています。昔は幼稚園の年齢までしっかりゆりかご園で療育を受けてから地域に出ていくことが多かったのですが、最近は働くお母さんたちが増えると共に、地域の保育所や幼稚園に小さな年齢から行くことが増えてきています。その分、ゆりかご園の職員は地域の先生方と連携していく必要性が高まってきており、それを解決するためにも「保育所等訪問支援事業」を上手に使いながら、地域との連携を深めていき、ゆりかご園の子ども達が地域で快適に過ごせることを進めています。

昨年まではセラピストが中心に訪問を行っていましたが、今年からはあおぞら園で培ったものを活かしながら、保育士や、心理士の立場から山本貴世副施設長にも参加してもらい、対応の幅を広げています。保護者の方々にとって、お子さんを地域に出すことは非常に勇気のいることだと思いますが、一人で悩まずにいろいろとご相談ください。(副施設長/作業療法士:山本康典)

徳岡主任の決意! ~2年目を迎え、今年度はさらにパワーアップします!~



お子様に寄り添う徳岡主任

お子様の行動の背景には感覚的なこと(過敏性や感じにくさ)、運動面、対人面、言語表出・理解などの様々な要因が関係しています。お子様の本当の困り感をどのように理解していくか、支援者の主観的な経験だけではなく、アセスメントを行い、対応していくことが大切だと感じています。

「ゆりかご園の生活に慣れてきた」という行動ひとつにしても、場面の理解、対人面の成長、生活リズム、見通しが立ちやすくなった、好きなことが見つかった等、理由は様々です。ただ「回数を重ねたから慣れた」では終わらずに、その行動の背景を常に考えるようにしています。また、発達検査、普段の遊びや自立課題に取り組んでいる様子、ご家庭や地域の保育園、幼稚園で過ごされている様子の聞き取りなど情報を集め、今のお子様にとって必要な課題を検討し支援計画を作成しています。ゆりかご園は、保育、リハビリ、医療と様々な立場の職員がお子様と関わりますので、常に情報を共有し、連携できるよう心がけています。その強みを活かし今後も様々な角度からアプローチし、お子様の自己実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。(主任/児童発達支援管理責任者:徳岡優子)

新たに入職された保育士をご紹介します! ~お子様の笑顔が大好き!高松保育士~

4月からゆりかご園の職員となりました高松と申します。ゆりかご園に入職して2か月が経ちました。一人ひとりのお子様にじっくりと関わらせて頂く中で、お子さまの笑顔にふれたり、保護者の方とお子さまの成長した出来事を共有する喜びを感じています。これまでは保育園で働いていたので療育施設で働いた経験は無くまだまだ勉強不足ですが、今までの経験も踏まえて、遊びの中でお子様が主体的に活動し笑顔で過ごせるような関わり方をしていきたいと思っています。そして保護者様にとっても安心して過ごせるような場所になるように、ゆりかご園の職員の一員として精一杯努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



お子様と紙あそびの片付けをする高松保育士(右)

